

豆の町（ビーンタウン）から

こんにちは（第7回）

会員家族 住井 円香

せるのか、気になつたのです。

ボストン大学の学生の多くも民主

党支持者です。カマラ・ハリス氏を

サポートすることを当然とする彼らは、ひょとしたら8年前の大統領選挙のときと同じような絶望感から、ショックを隠せないのでない

かと思いました。政治専攻の学生が多く受講する哲学の授業では、落胆した声が多く見受けられたもののが表立つて取り乱すような学生は少なかつたようで、若干ホッとしました。

一方、畳過ぎまで選挙結果を知らず、クラスメイトにトランプ氏の再選を教えられて、「ええ、まじで!?」嘘だろ!」といつたようにスラング交じりで驚いている学生もいました。

全体的な雰囲気から感じたのは、前々回の大統領選挙でトランプ氏が勝利した際のハーバード大学の学生が、以前のような衝撃を受けたのか、どのような反応を示したかについて、私は詳しくは知りません。ただ、ドナルド・トランプ氏の当選確定を知った時、真っ先に頭によぎったのは、かつて耳にした前々回の大統領選挙のそのエピソードでした。そこで翌朝、自分がいるボストン大学の学生は果たしてどのような反応を見

ますように、語り掛けっていたことも

印象に残りました。

■ 哲学で学ぶ主流派から外れた人の視点

大統領選挙の学生の反応からは少し話が外れます。私が受けているのは、論理哲学を扱った授業で、論証が妥当であるための条件や、聴き手に語り手を信頼させる要素などを学習しています。

ちょうど選挙期間中には、社会の中心から貧困や差別により疎外されたり、マージナライズド・グループ（Marginalized Group）にとっての

真実を考えました。そのグループに属する人たちのことは、いわゆる社会の中心部や多数派となる主流派集団の人たちが目に見る「現実の世界」には存在していません。そのため、主流派集団は、マージナライズド・グループのことが頭では理解はするけれど、響いてこないことがある、

という学びです。

例として挙がったのは、黒人の人が人種差別を受けたと訴えても、アメリカで歴史的に主流派とされる白

人の人たちにとって、自身が人種差別を味わうことがほとんどないた

■ オンラインの発言は感情露わ一方で、オンライン上では、激しい感情を露骨に示す人もいました。例えば、SNSのインスタグラムで

今後、絶対仲良くできない」という強い表現で投稿をしている人が幾人かいたり、学内の掲示板では、今後4年間の社会に悲観的になって、大

学側に特別なカウンセリングサービスの提供を望む、という書き込みまで見かけました。

いずれも極端な発言のようではあります。多くの若者にとってはまだアメリカの民主主義への信頼を大きく揺るがした2021年に起きた合衆国議会議事堂襲撃事件がトランプ氏となつての

マとなつてしたり、中絶政策など、今回の大統領選挙の争点となつた部分が、一体どのように変わるのかと

いう見通しが立てたず、先行きの不透明さに強い不安を抱いているようです。

先述の哲学の授業の教授は、「楽

経験している。どうやって前を向いて結束を深めるかについては、ここ

で一度トランプ氏の大統領時代を経験している。どうやって前を向いて結束を深めるかについては、ここ

で一度トランプ氏の大統領時代を経験している。どうやって前を向いて結束を深めるかについては、ここ

で一度トランプ氏の大統領時代を経験している。どうやって前を向いて結束を深めるかについては、ここ

で一度トランプ氏の大統領時代を経験している。どうやって前を向いて結束を深めるかについては、ここ

め、人（主流派集団）によつては、人種差別そのものが存在しないようになつてゐる。そのため、差別に認識してしまつ。そのため、差別されたという黒人の人の主張を心から信じることができないことがあつた、といった考え方でした。

この概念に当てはめて、今回の大統領選挙をみると、民主党の支持層にも、共和党の支持層にも、どちらも種類の異なるマージナライズド・グループがあり、お互いにそれぞれが主張する苦しみが視野に入らないため、意見を真に理解できないという見方もできるのではないかとも思いました。

大統領選挙の争点でいうと、中絶の議論に戻せば、どの命も等しく大切で殺めてはならないという考え方には、宗教的・倫理的にもちろん正しいのですが、望まない妊娠という現実があることを見る必要がなく生きてきた人たちにとつては、直接的・間接的要因により中絶せざるを得なくなつた人の様々な事情を汲み取りきれてはいないのではないか。安定した職業の人たちがシャンパングラスを片手に「移民の権利を保護しなければならない」と「正論」を述べたとしても、彼らは実際に職を失つたとしても、彼らは実際に職を失つ

た人たちの味わつたことを経験していないのではないか。大統領選挙戦で解消できなかつた、互いに理解し合えない、埋めきれなかつたものは、開票前の大方の見方と異なつていた選挙結果に影響を与えたところもひょつとしたらあるかもしれません。

SNS上では上述した他にも、対立意見に対する嫌悪感のあまり、異なるポリシーを持つた人を排除しようとすると人が少なくありません。ただし、マージナライズド・グループの人たちは、「社会の主流である考え方はわかつてはいた上で、主流派が見逃している問題への視点を併せ持つてゐる人たちである」ということも学びました。多様な国家、アメリカを発展させてきた大きな要因の一つに、これらの人々の視点があつたことは間違ひありません。

私も授業を通して、留学生であることを学びました。多様な国家、アメリカを發展させてきた大きな要因の一つに、これらの人々の視点があつたことは間違ひありません。

ことを期待していきたいと思つています。そして、私がアメリカの大学生活で得ることができた主流派集団の視点と、その集団に属していは見られない考え方を、将来日本で活かしたいという希望も持ちました。

楓之典君乳母草子

(日々是猫日) 其ノ捌

中條 恵子 陸自85

猫の起源・進化

猫

不管黒猫白猫、能捉到老鼠就是好

—— 黒い猫でも白い猫でも鼠を捕る
のが良い猫だ ——

鈴小平氏の言葉として知られていますが、その考え方は猫論（白猫黒猫論、黒猫白猫論）といい、清代の小説集『聊齋志異』（蒲松齡著）の「秀才驅怪」に関する評で、「黃狸黑狸、得鼠者雄」（黄色い猫でも黒い猫でも鼠を捕るのが優れている）と記されているのが初出とされています。

日本へは中国から伝来した猫様。初春を迎える此度は、猫様の起源・祖先と進化をご紹介いたしました。